【小学校・中学校・義務教育学校用】
令和６年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	唐津市立湊小学校

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：ややぶ十分である
D：不十分である

1　前年度 評価結果の概要	・全職員で共通理解のもと共通実践を行うことで、児童の思考力、判断力、表現力等が向上した。数値として力が見えるように、 ・全職員の安全管理意識の高揚と児童の健康体力づくりに努めた結果、児童が各種避難訓練、安全教室等に真剣に主体的に取り組むことができるようになった。また、全学級で県のスポーツチャレンジ種目に挑戦し、健康体力づくりへの機運が高まった。 ・地域連携協働活動を積極的に推進した結果、子どもたちが生き生きと活動する姿が見られ、一人一人の自己肯定感が高まっている。
2　学校教育目標	豊かな心をもち生き生きと自分の「よさ」を発揮できる湊っ子の育成
3　本年度の重点目標	課題に挑む子供たちの育成に向けて、子供たちが実力を発揮できる環境づくり・授業づくり 【環境づくり】すべての子供が笑顔で学ぶことができるための「安心・安全な環境づくり」「地域・保護者に開かれた学校づくり」「職員の笑顔づくり」を行う。 【授業づくり】校内研究や行事への取り組みなど、共通実践による「確かな学力の向上」「開発的生徒指導」を行う。

4　重点取組内容・成果指標				中間評価		5　最終評価				主な担当者 ◎主担当 （〇副担当）
(1)共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	〇全職員による共通理解と共通実践 〇教科に関わらず、児童が主体的に取り組み、「自分ごとの学び」を手に入れる学習活動の工夫を行う。 〇語彙力と読解力を高めるために、読書を推進する。	〇学校評価アンケートの校内研究に係る項目で共通実践ができていると回答した職員100%。 〇学習に対する意識調査の主体性に関する項目において、肯定的な回答をした児童が80パーセント以上。 〇児童の目標貸出冊数を達成。(低学年100冊100%・中学年80冊100%・高学年50冊80%)	・校内研究において、各学年の取組を共有する体制を構築し、切磋琢磨して更なる取組の促進を図る。 ・問題解決に向けて学習の目的や方向性を示すラーニングマウンテンを取り入れる。 ・自己選択・自己決定の場を取り入れ学習を調整できるようにする。 ・図書室の活用や家読を推進する。		※中間評価については、『非表示』です。	B	・校内研究において、研究の柱に沿ってすべてのクラスで授業提案ができた。学習（算数）に対する意識調査では、意欲に関わる質問について肯定的に回答した児童の割合は86%と一番高く、算数の学習に最後まで粘り強く取り組もうとする姿が多くみられるようになった。 ・各学年においてラーニングマウンテン(単元構想表)を取り入れ、児童が見通しをもった学びや「ふり返り」ができた。児童の学習への期待感の高まりが感じられるとともに、課題意識をもって問題解決的学習に取り組む姿が多くみられた。 ・児童の目標貸出冊数を90%以上達成できた。地域のボランティアの方々の読み聞かせや国語の図書単元の本の紹介、図書館まつりなど、読書への関心を高める手立てを工夫することができた。	B	・保護者が子どもの家庭学習(宿題)の取組状況を把握していないのではないか。例えば、放課後児童クラブ等で宿題ができるメリットがあるが、家庭において保護者が家庭学習(宿題)を全く見なくなるデメリットもあり、学力向上の視点からは憂慮すべき面でもある。学校全体で家庭学習の系統性を検討すべきである。	◎学力向上コーディネーター 〇研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	〇道徳科の項目「生命の尊さ」「親切、思いやり」を重点項目とし、2回以上授業を行う。 〇生活アンケートで「友だちのいいところを見つけようとしている」の項目において肯定的な回答をした児童の割合が85%以上。	・教育の日等に「ふれあい道徳」として道徳授業の公開を行う。 ・体験活動を通して、友だちとの関わりや地域の人とのふれあいの機会をふやす。 ・「きらりみつけ週間」を作り、友だちのよさに目を向けられるよう仕組む。			B	・重点項目としていた「生命の尊さ」「親切、思いやり」の項目の授業を各学年2回以上行うことができた。授業と併せて日常生活の中での言葉かけなど日々の心への種まきを継続していきたことにより、学校の支持的風土づくりの取組をについては、80%以上の保護者より肯定的な評価であった。 ・「きらりみつけ週間」を通して、友だちのよさに目を向けられるように仕向け、子どもたちへのアンケートでは「自分がすごいといわれることがある」の項目で肯定的な回答をした児童が80%だった。	B	・保護者だけでなく地域人材も参観できる「唐津市教育の日」等に「ふれあい道徳」の授業参観等を実施し、今後も地域全体で児童の道徳性の育成を継続してほしい。	◎道徳教育推進 〇各学年担任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	〇生活アンケートで「いじめをゆるさない」気持ちを持っていると回答した児童が85%以上。 〇学校評価アンケートのいじめ防止等の項目で組織的対応ができていると回答した職員が90%以上。	・いじめ発見や対応について職員連絡会や職員会議で気になる児童の情報共有を行う。 ・生活アンケートを学期に1回、県のアンケートを年に2回行い、児童の気持ちやいじめについての実態を把握する。 ・いじめの認知・対応についての職員研修を行う。			B	・年3回の生活アンケートで、「いじめを許さない」という気持ちをもつ子供が95%を達成し、ほとんどの児童にいじめはしてはいけなことだという意識をもたせることができた。 ・学期に1回の生徒指導協議会や職員会議で、児童の様子や問題行動について情報を共有し、学級担任だけでなく、学校全体で対応の仕方や関わり方について考えることができた。 ・保育園への聞き取りや地域の見回りを行い、地域との連携をとることで、交通事故や地域での問題行動を減らすための具体的な指導を行うことができた。	B	・以前より本校区は「言葉遣いが荒い」と言われてはいるが、児童の言葉遣いの乱れの責任は家庭や地域にもある。家庭や地域での言動について、学校から積極的に問題提起や啓発を行ってもよくないか。	◎生活部長 〇各担任
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●生活アンケートで「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童が75%以上 ●生活アンケートで「将来の夢や目標を持っている」に肯定的な回答をした児童が80%以上	・自分なりの「ふりかえり」を重視した効果的・効率的なキャリアパスポートの記述を進める。 ・各種活動で、児童に活動の見通し、学びのふり返り、及び自らの達成感を感じさせる活動を仕組む。 ・地域の人々との交流を通して学ぶ体験活動を各学年、年3回以上実施する。 ・「出番・役割・承認」の取組を徹底する。			B	・毎時間の授業だけでなく節目となる行事ごとに「めあて」と「ふりかえり」を意識させ、カード等に記入させる取組により、キャリアパスポートの活用につながった。 ・毎日の給食の時間に学校長が全校児童のよさを認める「ハッピータイム」の全校放送を行い、全校児童100%のそれぞれのよさを認め、自己肯定感を高めることができた。また、児童も放送をおこなうことで友達のよさを見つけ、認め合うことができた。 ・各学年地域の人々との交流を通して学ぶ体験活動を行うことができたが3回以上実施できた。	A	・様々な活動を通して子どもたちが誇りや自信をもち、自己肯定感を高めてほしい。それらの活動にもっと地域人材の活用を促進できるよう協力を惜しまない。	◎教務主任 〇総合的な学習の時間主任

●健康・体つくり	●望ましい生活習慣の形成 ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○生活習慣アンケートで「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣が身についていると回答した児童が90%以上。 ●「健康に良い食事をしている」児童80%以上。	・食育月間の6月11月の1週間に「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣アンケートを実施する。毎回振り返りを各自行い,達成率及び児童, 保護者の取り組んだ感想を保健だよりに掲載し、保護者への周知を図る。 ・食育月間や各学期に1回の「手作り弁当の日」を設定し,振り返りのワークシートに感想を書かせる。,写真や感想を廊下に掲示したり, 保健だよりに掲載したりすることで, 食への興味関心を高める。			B	・6月に生活習慣アンケートを実施し、児童の達成率は「早寝」71.4%、「早起き」81.3%、「朝ごはん」98.2%で、11月もほぼ同等の結果であり、「早寝、早起き、朝ごはん」の取組が定着している。 ・学期に1回「手作り弁当の日」を実施した。感想では、食事を作ってもらうことへの感謝や、親子で料理をすることの楽しさを感じており、年度3回の取組で、一定の成果が見られたため、来年度は、年間3回の取組を2回として、内容の工夫して充実させたい。	B	・生活リズムの乱れによる健康や学力、情緒形成への影響について、もっと学校から問題提起、啓発していってよくないか。	◎養護教諭 ○保健主事
	○たくましい体づくりの推進	○体力アップ記録カードのアンケートで、「運動をすることが好き」と回答した児童が90%以上。 ○スポーツチャレンジに取り組み,各学年3種目以上のエントリーをする。 ○持久走大会へ向けての持久走タイムで、運動場50周を目標に取り組み,達成率90%を目指す。	・スポーツチャレンジに各学年3種目以上取り組み,体を動かす楽しさを味わう機会を増やす。 ・持久走大会の3週間前から, 業間で持久走タイムに取り組む。その際に持久走カードを使用し、持久力の向上を目指す。			A	・体力アップ記録カードのアンケートで、「運動をすることが好き」と回答した児童が90.8%だった。運動への意欲が高い。 ・スポーツチャレンジに全学年が3種目以上のエントリーできた。佐賀県内エントリー賞2位になり児童の運動への意欲付けになった。 ・持久走大会へ向けての持久走タイムで、運動場50周を目標に取り組み, 達成率94. 3%を達成した。実施期間は昨年と比べて短かったものの,熱心に取り組んでいた。	A	・子供の遊び場や近所の友達が少なくなっている現状、地域や保護者が率先して場所や機会をつくることが必要であろう。 ・スポーツチャレンジに対する取組がすばらしい。今後も継続することが健康・体力向上につながる。	◎体育主任 ○体育部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限である月45時間・年360時間を超過する職員を0とする。 ○学校評価アンケートの業務改善に係る項目で肯定的な回答をした職員が90%以上。	・働き方改革の視点で変更した校時の実効性を検証する。 ・定時退勤日（金曜日）を設定するとともに、定時退勤日以外の日も退勤時刻を早められるよう、声掛けをしていく。 ・会議時間の終了を退勤時刻の15分以上前と設定し、90%以上の割合で達成する。			B	・時間外在校等時間が月45時間を超過する職員が、年度前半は30%を超えていたが、業務改善策の可視化等、実効性を高めたことで、11月以降は0～1人と減り、少しずつ改善された。しかし、年360時間を超過する職員もおり、さらに働き方改革の実効性を高める必要がある。	B	・さらなる効果的、効率的な勤務体制を構築し、先生が元気に働く学校をめざしてほしい。地域人材によるサポーター体制の整備を見直すことも必要だろう。	◎教頭
	○教職員の役割の見直しとICT・専門スタッフの活用による効果的・効率的業務の創造	○教職員のワーク・ライフ・バランスのとれた生活を実現し、健康でやりがいを持って働くことができるICT・人的環境を整備する。	・日常的に教職員自らの勤怠管理を意識させ、専門スタッフの活用や教職員同士で教え合う体制を醸成し、ICTも活用して業務改善に取り組む。			B	・専門スタッフや各種サポーター、地域人材の活用により、効果的・効率的な業務遂行が進んでいる。ただ、業務におけるICT活用をあらゆる面で取り入れているが、まだまだ習慣化やスキル面に課題があり、今後も継続して意識化と「慣れ」が必要である。	B	・地域や保護者への連絡文書のさらなるペーパーレス化を進め、はなまる連絡帳等による電子媒体による連絡体制を強化させる必要がある。	◎教頭
●特別支援教育の充実	○一人一人の個性や特性を生かした指導及び支援の充実と職員のスキルアップを図る。	○校内支援会議を定期的に組む。支援が必要な児童に対して、個に応じた支援に活かす為に心理検査を行う。心理検査の結果を基に支援の手立てを考える。 ○職員研修を年2回計画し、職員のスキルアップを図る。	・必要に応じてケース会議を開き、困り感のある児童について情報を共有する。支援が必要な児童に心理検査を行い、学級の支援に活かす。 ・「学びの多様性に関して」職員研修を行い特別支援的な配慮や支援グッズなどの研修を行う。			B	・必要に応じて支援会議を開き、情報共有を行い今後の対応策を話し合って支援にあたることができた。また、職員会議や連絡会で困り感のある児童の情報を出し合い、全職員で児童の共通理解を図ってきた。全体で支援が必要な児童についての1年間の振り返りと情報共有を行い、次年度につなげるようにしている。	A	・丁寧に個別対応をされてあると思う。	◎特別支援教育コーディネーター ○特別支援学級担当者

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○地域とともにある学校づくり	○地域人材の活用や地域との交流	○地域人材を各学年で年間3回以上活用する。 ○児童が年間3回以上、地域の行事に参加する。	・公民館、地域団体などとの連携を図り、活動を展開する。 ・「人材リスト」を活用し、地域人材と日常的につながりをもつとともに、地域行事の日時と内容を紹介し、児童の参加を促す。			A	・各学級で地域人材を効果的に活用し、全学級で年間3回以上の地域連携協働活動を行った。今年度は新たに公民館祭りへのブース参加や地域のお年寄りの方との交流会、福祉体験等の地域学習を展開するなど、地域との連携がさらに深まった。	A	・4年生が行った地域のお年寄りの方との交流活動が好評であった。公民館の祭りで見た児童も生き生きしており、元気をもらった。ただ、活動が終わるとスマホやゲームに興じないように気をつける必要がある。	◎教頭

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・次年度への展望	・「課題に挑む子どもたちの育成に向けて、子どもが実力を発揮できる環境づくり・授業づくり」をテーマに全職員で共通理解のもと共通実践を行い、学習意欲と課題解決に向かう粘り強さが向上した。しかし、具体的に数値化した力としてはまだ確認ができず、特に課題となった「読み取る力」の育成が来年度の課題である。 ・「安心安全な環境づくり」をテーマに全職員の安全管理意識の高揚と児童の健康体力づくりに努めた。その結果、児童が各種避難訓練、安全教室等に主体的に取り組むことができた。また、全学級で県のスポーツチャレンジ種目に挑戦し、その成績は県よりエントリー賞として表彰を受けるなど、全校で健康体力づくりへの機運が高まっている。この雰囲気を小中学校で連携した取組として来年度も継続していきたい。 ・「地域、保護者に開かれた学校」をテーマに地域連携協働活動を積極的に推進し、特に今年度は、地域の公民館活動及び福祉活動との連携を推進した。その結果、地域に役立つ自分を理解し、子どもたちが生き生きと活動する姿が見られ、一人一人の自己肯定感が高まっている。来年度もこれらの活動を継続発展させ、その過程で具体的な思考力、判断力、表現力等の育成に繋げていきたい。□ □